

週日の説教

金 大烈 神父 2010年11月3日(水)

《永遠の命を得る》 - 墓地ミサにて -

主の平和

さあ、信仰の目的は何でしたか？

昨晚もミサで申し上げたのですが、もう一度皆様と考えてみましょう。

私達の信仰の最後の目的は何でしょうか。それは「永遠の命を得る」ことです。

それでは皆様にお尋ねします。「永遠の命」を信じますか。「はい、信じます！」

(皆が手を上げました。) 今、手を上げなかった人は後で私と個人面談をしましょうか。(笑い)

さあ、「永遠の命」を皆様は信じていらっしゃいます。そうしたら、「永遠の命」の何を信じますか。

「永遠の命」があることは信じます。少なくともカトリック信者ならば「永遠の命」があることを信じています。また、カトリック信者ならば、もっと信じなければならないものがあります。“頑張れば永遠の命が得られる”これが大事なことです。「永遠の命を得る」ということは「永遠の命を得ることが出来ない」ことも私達は意識しなければなりません。

結局、私が皆様に一言申し上げたいことは、本当に辛い時、本当に悲しくてたまらない時、本当に怖くて全く前が見えない時、その時思い出さなければならないことは「永遠の命」です。結果的にイエス様が私達に見せようとなさったことは、この世の中にはありませんでした。

『お互いに愛し合いなさい』(1ヨハネ4・7)という言葉は、この世を生きるために下さったメッセージかも知れませんが、このメッセージさえ最終的には「永遠の命」につながっています。

私達は誰でも「死」を怖がっています。私も怖いです。イエス様も怖がられました。「死」を怖がることは当たり前。恐れることは当たり前です。しかし、「死」を恐れたままで終わることなく、希望として「永遠の命」を私達は信じているから乗り越えられるのです。ですからここに眠っている私達の家族が、この状態で終わるのではなく、今一緒に、このミサに与っていると確信が出来ることです。

皆様、私達は死にません。絶対死にません。しかし、どんな形で死なないかが大事なことです。「永遠の命」を得ることが出来る相応しい生き方を最後までするためには、やっぱり神様の御旨にかなう相応しい姿をみせようと、いつも頑張らなければならない、努力しなければならないと私は思います。

今日読まれた第一朗読(ローマ8・31b-35)の初めにこのように書かれています。『〔皆さん〕もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。』これが信仰です。

「死」という暗闇が私達を待っていても、私達が神様と一緒にいれば、いることが出来れば、「死」も私達の敵ではありません。それが私達の根本的な信仰であることを、今日のこの墓地ミサを通してもう一回考えてみましょう。

ありがとうございました。